ユーモア表出と表出対象との親密さ

宮戸美樹

(横浜国立大学)

キーワード：ユーモア、ユーモア表出、親密さ

Expression of Humor and Intimacy with the Other

Miki MIYATO

(Yokohama National Univ.)

Key Words: Humor, Expression of humor, intimacy

目 的

塚脇ら(2009)は、従来のユーモア研究を概観し、人がユーモアを使用する理由について検討するために、動機という概念を用いてユーモア表出の動機を実証的に解明し、ユーモアの種類により表出動機が異なっていることを明らかにしている。ユーモア表出は対人場面においてなされるものであり、表出する相手とどのような関係であるという「相手との親密さ」が、どのような意図でどのようなユーモアを表出するかということに対して、強く影響すると推測される。しかし従来の研究では、表出行動・表出意図と表出対象との関係性に注目した研究はほとんどみられない。そこで本研究では、表出する相手との関係性によって、表出されるユーモアのタイプや表出意図に違いがみられるかを検討することを目的とする。

方 法

調査対象者：首都圏の4年制大学の大学生 273 名 (男性 142 名、女性 131 名、平均年齢 20.1 歳) を分析の対象とした。**調査内容：**①ユーモア表出行動尺度：攻撃的ユーモア・遊戯的ユーモア志向尺度(上野, 1992)、支援的ユーモア志向尺度(宮戸・上野, 1996)を、それぞれのユーモアを表出する行動を測定する項目に変更して使用した。対象による表出行動の違いを測定するため、①親友②友人③知人を対象として挙げ、それぞれについて回答を求めた(5件法)。②ユーモア表出意図尺度：「相手を笑わせる理由」について自由記述で尋ねた結果、4因子を想定して作成した候補項目 20 項目を使用した。対象による表出意図の違いを測定するため、①親友②友人③知人を対象として挙げ、それぞれについて回答を求めた(5件法)。

結 果

1. ユーモア表出行動尺度について：各ユーモア表出行動項目について対象ごとに主成分分析を行い、全ての対象の分析において負荷量が.30 以下を示した項目を除外して再度分析を行い、攻撃的ユーモア表出行動尺度7項目、遊戯的ユーモア表出行動尺度6項目、支援的ユーモア表出行動尺度8項目を作成した。

2. ユーモア表出意図尺度について：対象ごとに因子分析(主因子法・Promax 回転)を繰り返し、因子負荷量が.35 以上を示した4因子解(各4項目合計 16 項目)を採用した。第1因子は『関係操作』、第2因子は『雰囲気操作』、第3因子は『他者支援』、第4因子は『自己印象操作』とそれぞれ命名した。

3. 表出対象別にみたユーモア表出行動について：ユーモア表出行動の表出対象による違いを検討するために、3種のユーモア表出行動尺度について①親友②友人③知人の3対象を被験者内変数とした分散分析を行った。その結果、3種のユーモアともに、知人よりも親友や友人に対して表出されている一方で、親友と友人との間には有意差はみられなかった。

4. 表出対象別にみたユーモア表出意図について：ユーモア表出意図の表出対象による違いを検討するために、3種のユーモア表出意図尺度について①親友②友人③知人の3対象を被験者内変数とした分散分析を行った。その結果、ユーモア表出に際して親友や友人は知人よりも「他者支援」と「雰囲気操作」が意図されており、一方で、親友は友人や知人に比べて「自己印象操作」は

意図されていないことが明らかになった。「関係操作」については表出対象間での有意差はみられなかった。

5. 表出対象別にみたユーモア表出意図と行動の関連について：ユーモア表出意図と表出行動の関連について、表出対象による違いを検討するために、第1水準をユーモア表出意図、第2水準をユーモア表出行動に分け、表出対象ごとに重回帰分析(一括投入法)を行った。標準偏回帰係数(パス係数)を Fig1～Fig2 の図中に示した。実線は有意な正のパスを、破線は有意な負のパスを示す(* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$)。

Fig1. 親友における表出意図と表出行動のパス図

Fig2. 友人における表出意図と表出行動のパス図

Fig3. 知人における表出意図と表出行動のパス図

考 察

ユーモア表出行動については、知人よりも親友や友人に対してすべてのユーモア表出が多くされており、親しい関係性であるほどコミュニケーションの中にユーモア表出という方法が取り入れられていることが明らかとなった。表出意図についても、知人は親友や友人よりも「自己印象操作」が、親友と友人には知人に比べて「他者支援」「雰囲気操作」が強く意図されており、相手との関係性がユーモア表出意図にも影響を与えていることが示唆された。

表出意図と表出されるユーモアのタイプとの関連では、相手との関係性により、表出意図と表出されるユーモアには違いがみられており、どのような意図からどのようなユーモアを表出するかについても、相手との関係性が強く影響していることが示唆された。

引用文献

塚脇涼太・越良子・樋口匡貴・深田博己 2009 なぜ人はユーモアを感じさせる言動をとるのか?—ユーモア表出動機の検討—心理学研究, 80, 397-404

*この研究は、阿孫聖翔さんの平成 24 年度横浜国立大学卒業論文のデータを再分析・検討したものである。